

子ども議会の実施状況について

	京都子ども市会	京都府子ども議会																		
1 実施主体 (所管課)	京都市教育委員会 (指導部学校指導課)	京都府 (府民生活部青少年課)																		
2 概要	平成10年に京都市自治100周年事業として開催。 【日程】 平成10年7月15日(水)～8月26日(水) 7月15日(水) 第1回本会議・特別委員会 7月27日(月) 第1回宣言文草稿委員会 8月20日(木) 第2回特別委員会・宣言文草稿委員会 8月26日(水) 第2回本会議 ※ 上記の他、子ども議長・副議長・委員長・副委員長への事前指導を実施。	平成19年度から隔年で開催。 【日程(平成27年度)】 平成27年6月27日(土)～8月20日(木) 6月27日(土) ワークショップ(オリエンテーション・質問づくり) 28日(日) ※27日:宮津市, 亀岡市 28日:京都市 7月27日(月) ワークショップ(班ごとに質問, 提案づくり) 28日(火) ※27日:宮津市, 亀岡市 28日:京都市 8月4日(火) ワークショップ(議場視察, 全体交流) 8月20日(木) 子ども議会																		
3 対象	市内の国公立・私立学校, 民族学校等の 小学5年生～中学3年生	府内に在住・在学の小学5・6年生 (これに相応する学歴の子どもを含む)																		
4 応募者数及び 採用者数	応募者数: 1,496名(179校) 採用者数: 72名(当時の議員定数と同数) ※ 競争倍率20.7倍 ※ 応募者の提案内容に応じて, 特別委員会ごとに委員を決定。	以下のとおり。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>19年度</th> <th>21年度</th> <th>23年度</th> <th>25年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募者数</td> <td>149(33)</td> <td>154(68)</td> <td>116(49)</td> <td>85(35)</td> <td>71(31)</td> </tr> <tr> <td>採用者数</td> <td>60(23)</td> <td>60(28)</td> <td>60(24)</td> <td>60(25)</td> <td>60(26)</td> </tr> </tbody> </table> ※ カッコ内は京都市内の人数(内数)		19年度	21年度	23年度	25年度	27年度	応募者数	149(33)	154(68)	116(49)	85(35)	71(31)	採用者数	60(23)	60(28)	60(24)	60(25)	60(26)
	19年度	21年度	23年度	25年度	27年度															
応募者数	149(33)	154(68)	116(49)	85(35)	71(31)															
採用者数	60(23)	60(28)	60(24)	60(25)	60(26)															
5 経費	735万円 ・ 記念品作成 ・ 記念冊子・ポスター作成 ・ テレビ放送 ・ その他	約100万円 ・ 記念品等作成費 ・ イベント保険料 ・ バス庸車料 ・ 旅費 等																		
6 内容	・ 「もっと元気に・京都アクションプラン」の5つの部門(「ひと」「まち」「産業」「文化」「自然」)に沿った特別委員会における意見交換及び理事者との質疑応答 ・ 本会議における市長との質疑応答 ・ 「京都こども市会宣言」の採択	・ 知事等への質問・提案づくりのためのワークショップ ・ 子どもたちが議長, 副議長, 議員となり, 知事等に提案発表や質疑応答																		
7 所管課の業務	・ 予算及び事業内容の検討 ・ 各局及び校長会等との連絡調整 ・ 事業の広報(テレビ放送の委託を含む。) ・ 子ども議員の募集・選考 ・ 本会議, 特別委員会の運営 ・ 各局理事者答弁の事前調整 ・ 各局による市長勉強会の開催, 答弁の事前調整 ・ 記念品, 記念冊子等の作成	・ 予算及び事業内容の検討 ・ 関係部署等との連絡調整 ・ 事業の広報 ・ 子ども議員の募集・選考 ・ ワークショップ, 本会議の運営 ・ 各部による答弁の事前調整 ・ 措置状況の公表 ・ 記念品, 記念冊子等の作成 ・ 「子ども議員だより」の作成, 発行																		
8 議会の関与	・ 第2回本会議(8月26日)における議長挨拶	・ 子ども議会(8月20日)における議長挨拶, 議長アドバイス(答弁), 副議長メッセージ及び傍聴(H25実績:府議会議員47名)																		
9 実施に当た る課題等	・ 子どもからの質問について, 内容に偏りが見られ, 多様な質問を引き出すのが難しい。 ・ 議場を使用するため実施できる時期が限られ, また参加者については, 保護者の送迎が必要となるため, 参加者が限定される(複数回送迎していただく必要がある)。 ・ 一部の児童・生徒のみが関わる事業であるため, 成果が限定的なものとなる。 ・ 継続した支援が必要となる指導者についても, 夏季休業期間は教員採用試験や教員研修等が予定されており, 複数回の会議全てを支援することは困難。 ・ 子どもからの提案が将来的に施策に結び付けられるかが不透明。 ・ 答弁に当たっての事前勉強会や, 答弁内容の調整等, 事務量が多く, 各局の負担となる。	・ 国及び各自治体の役割の違いを十分理解できず, 議会制度もまだ学んでいない学齢のため, 府の所管事項に係る質問を考えさせるのが難しい。また, 子どもの考えを尊重しながら多岐にわたる質問をまとめていくのが難しい。 ・ 質問内容を充実させようとする, 3日間のワークショップでは日数が足りないという意見がある一方で, 現在の日数でも日程を合わせるのが難しいという意見もある。 ・ 答弁内容の事前調整等, 各部の協力が必要。																		